



## 編集後記

日韓問題がきな臭い。記録的な低投票率となった参院選が終わり、せつかく10代にも選挙権を与えたのに、日本国民の政治への関心を喚起・醸成できなかつた安倍政権への批判が噴出すると思いきや、なんと8月2日に韓国の文在寅大統領が安倍政権への批判を展開した。曰く「韓国政府と国際社会の外交的解決の努力を無視し、状況を悪化させてきた責任が日本政府にあることが明確となった以上、今後繰り広げられる事態の責任も全面的に日本政府にある点をはっきりと警告する。加害者である日本が『盗人猛々しく、むしろ大口をたたく状況を決して座視しない』というもので、これはあくまでも筆者の個人的な感覚かもしれないが、『盗人猛々しい』は一国の政府を代表する人物が発する言葉としていささか品格を欠くように感じる。

幸か不幸か、日本側は「売り言葉に買い言葉」の応酬にしなかつた点は評価できる。元弁護士でもある一國の長が大韓民国という国を代表し

て発する言葉遣いとしていかなものかと思う。

もちろん、筆者はハンゲル語を解さないので、原文がどうであつたかはわからないが、翻訳を見る限り見ても無残な品格のなさである。

そういえば、文大統領は年初の記者会見でも「1965年に国交正常化をしてはいるが、日本には植民地支配をしたという原罪があり、それについての国家責任を認めない」という考え方だ。つまり、1919年の三一運動で臨時政府、国家ができていたため、1910〜1945年の日本による統治は非法で無効なものであり、全ての原因はそこに根ざしている。それなのに何をいけしゃあしゃあと『ということだ』という表現を使っている。

この品格を書いた発言では、トランプ米大統領が時として引き起こす『暴言』を批判はできない。

よもや居酒屋における酔漢同士の口喧嘩ではあるまいに、そのままエスカレートしてしまえば最後は喧嘩（＝戦争）という事態にもなりかねない。

願わくば、我が日本の政府がこう

した品格を欠いた挑発的な「売り言葉」に乗ることなく、常套句かもしれないが「遺憾の意」のような穏やかな表現を心がけ、外交を肅々と進めていただければと思う。

昨今の都会暮らしは時として「思いやり」の無さや「心の機微」といったものを置き去りにしてしまいがちだが、そうした人と人との接点におけるさまざまな心遣いはとても大切なものに見える。

少なくとも日本は「主権在民」の国であり、その主権者である日本国民の心配りは、「おもてなし」という言葉に代表されてオリンピック・パラリンピックの招致でもクローズアップされた。外交というステージでも、日本らしい心配りや対応と云った日本の所作は世界からも注目されているはずだ。

どのような国々から、いかなる品格と礼儀作法を欠いた言葉を投げかけられたとしても、あくまでも日本らしい言動を心がけ、スマートに、紳士的に、品格を欠かないように毅然とした対応をしていただければと思う。

(溪)

# 月刊 公論

9月号 第52巻9号

令和元年9月1日発行 毎月20日発売  
本体価格848円(税別) 送料86円

発行人 大中 吉一 編集人 林 溪清

発行所 株式会社財界通信社

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ポナフラービル

TEL.03-5379-5611(代) FAX.03-5379-5616

印刷所 株式会社廣済堂

取次店 日本出版販売／大阪屋栗田

●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。

●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。